

長崎ほいくだより

No. 244
2017.5

発行人 西川 義文
編集人 山口 進太郎
購読料 1部 55円

発行：一般社団法人 長崎県保育協会 長崎市茂里町3番24号 長崎県総合福祉センター 3F TEL.095-846-8871



僕は長崎市三原町に生まれ育ちました。幼稚園にはバスで通い、その道のりは大変遠く、1日のなかでもとても一大事なことでした。僕が通っていた幼稚園はとても園庭が広く、よくひとりで走り回っていました。しかし、あまり友達はいなく、唯一、頼りにしていた人が幼稚園のシスター兼先生だったように思います。そのシスターはいつも僕に声をかけてくれたり、帰るときは何かアメをくれたりと、そのころは僕の両親よりも慕っていたように思います。

今考えると、小さい頃の幼稚園や保育園の先生の役割はすごく大切で、その教育こそが大人になっていく上でもっとも人生の指針になっているような気がしています。

出会い

僕は長崎市三原町に生まれ育ちました。幼稚園にはバスで通い、その道のりは大変遠く、1日のなかでもとても一大事なことでした。僕が通っていた幼稚園はとても園庭が広く、よくひとりで走り回っていました。しかし、あまり友達はいなく、唯一、頼りにしていた人が幼稚園のシスター兼先生だったように思います。そのシスターはいつも僕に声をかけてくれたり、帰るときは何かアメをくれたりと、そのころは僕の両親よりも慕っていたように思います。

僕の幼い頃の思い出



返ってそのシスターの話をしますと、本当に誰にでも優しく、幼稚園以外でも外で見かけると、大声で僕の名前を呼んでくれました。そして、いつも笑顔で接してくれたように覚えていてます。

酪農一家

僕の家は専門の酪農の家でホルスタインが13頭いて、ニワトリに猫に犬、また、鳩も飼っていました。家族は両親と父の姉と、親戚2人と5人の兄弟におばあちゃん、11人家族でした。両親はいつも牛のお世話で1日中働いていました。牛は1日、たくさん草を食べまわす。とくに家のまわりは段々畑なので、毎日、草を刈って、13頭分の餌をやらなければなりません。また、糞の掃除、そして牛乳を絞り、それを毎日工場まで持って行く作業があるのです。それを家族全員で手伝っていました。僕はまだ幼かったので、あまり手伝いはできませんでしたが、よく父親が畑

に連れて行ってくれたり、配達用のバイクに乗せてくれたり、そのことがすごく楽しかった思い出があります。



ただ、いつもそういうわけにもいかず、一人で遊んでいることが多く、畑から飛び降りてケガをしたり、いつもケガが絶えない子どもでした。そんなケガのなかからこれ以上は無理だとか、いろいろなことを家のまわりで覚えていたと思います。家のまわりには、たくさんのお小川がありナマスやメダカ、そして、6月になるとホタルの大群を見ることができたり、そこに自分だけの秘密の場所があったりとか、楽しい思い出ばかりが思い出せません。

のが大きな楽しみのひとつでした。また、夏が終わると、た

くさんのトンボやコオロギなどいろいろな虫を捕まえて遊んでいました。そんな生活だったのでほとんど勉強はできず、幼い頃は幼稚園や学校にいるより家のまわりで遊んでいる方が楽しかったように思います。

自然との触れ合い

また、僕の幼稚園の頃はみんなで芋掘りに行っていました。幼稚園の外に出て、農家の方と触れ合い、幼稚園の先生、友達と一緒に芋を掘り、土まみれになっていました。本当に楽しい思い出です。幼稚園以外での課外体験が、今でも忘れられない思い出です。ぜひ、今の時代だからこそ、いろいろな方達との触れ合いを体験させてほしいと思います。

例えば、夏にプランターでキュウリやゴーヤを植えれば、収穫し食べられるし、日陰にもなります。幼稚園でいろいろな農作物を作って、子ども達に作物を育てる体験をしてほしいと思います。また、できた野菜を先生、お父さん、お母さん、子ども達と一緒に料理を

ぶ場所であり、また、僕にとつての家とは遊



庭園デザイナー
石原 和幸

22歳で生け花の本流「池坊」に入門。以来、花と魅了され路上販売から店舗、そして庭造りをスタート。昔を使った庭で独自の世界観が国際ガーデニングショーの最高峰である「英国切尔西フラワーショー」で高く評価され、2016年大会では最高賞のプリジデント賞を受賞。また、全国で庭と壁面緑化事業を展開し環境保護に貢献すべく活躍中。

1958年長崎県生まれ、58歳
(株)石原和幸デザイン研究所代表

大切なこと

幼い頃、僕の唯一の拠り所は先生で、僕にとって先生は言うこと何かが両親の言うことよりもすごく大切で、その関係は何か神様からの言葉のように聞こえました。ちよつと大袈裟かもしれませんが、それくらい先生のことを尊敬していました。僕にとつての家とは遊

最後に子ども達にいろいろな体験や、また、花や緑に触れさせてい

たいただきたいと思



出合いと別れの季節が過ぎ初夏の訪れを感じることが多い。温かい日差しを受け、子ども達は元気いっぱい園生活を楽しまれています。新しい仲間も段々と園生活に慣れ、少しずつ笑顔が増えています。また、保育園から小学校へ進学した新一年生は、楽しく小学校へ通っているでしょうか。黄色のカバーがついたランドセルを見ると、卒園した子ども達のことを思い出します。

▼生活がガラッと変わるのも子ども達だけではありません。私たち大人も仕事や育児などの環境が変わり、やつと一月経って慣れたころに大型連休。また一から気合を入れたおさななといけいなものを感じてしまう。季節の変わり目もすぐそこま

て来ている。体調など崩されないよう気を付けましよう。▼環境が変わることは何も悪いことだけではありません。新しい玩具や新しい教室。新しい仲間や新しい先生。新しいものを見たり触ったりすることはとてもワクワクすることです。楽しいこと。特に乳児期は精神的にも身体的にもとても敏感で、人見知りや場所見知りや泣いてしまうことが多く見られます。子どもの成長は、一見ただけではわかりにくいことが沢山あります。そんな子ども達の成長を保護者の方と一緒に喜び、一緒に分かち合うことが保育の楽しみのひとつでもあります。ぜひ色々先生とお話ししてみたい。きつと新しい発見があると思います。

長崎ほいくだより

購読料 一部 55円

発行：社団法人 長崎県保育協会 長崎市茂里町3番24号 長崎県総合福祉センター 3F TEL.095-846-8871

続きは、お買い求めいただきご購入下さい。
お問い合わせは、保育所(園)または長崎県保育協会までお願い致します。

2ページ目以降の内容をご紹介します

■ つれづれ

園長先生等のリレー式コラムです。保育に対する思いや考えなどを文章にしています。

■ 保育のひろば

● 地域との交流

各保育園の近隣の交流状況など画像を添えて紹介します。

● ランチタイム

給食やおやつ、食育等の取り組みを情報提供致します。

● 保育園めぐり

県下の保育園を地区別に順番で紹介しています。

■ すこやかなそだち

保育の専門家が、プロの視点で子育てに関する様々なテーマに基づいて書き下ろす連載コーナーです。

■ 読者のひろば

子育ての思いやエピソードなど地区別の保護者に書いていただくコーナーです。

■ であい

保育士に保育に対する質問を投げかけそれに答えるコーナーです。

■ ZOO夢イン 家族のお出かけスポット情報

編集部一押しの地元のお出かけ情報です。家族向きのお出かけに参考になります。

■ つぶやき

■ わんぱく写真館

子ども達の日頃の保育園における活発な活動の写真を掲載しています。

■ え?!絵本

子ども向けのおすすめ絵本です。わかりやすく解説しています。